

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4078100080		
法人名	有限会社 里心		
事業所名	グループホーム 里心		
所在地	福岡県八女市黒木町木屋6337-1		
自己評価作成日	平成28年3月15日	評価結果確定日	平成28年8月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成28年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

自然豊かで空気の澄んだ環境の中、四季折々の季節を堪能できる場所で、毎日笑顔の絶えない雰囲気づくりを行っています。また食事にこだわり、毎日手作りの食事で、材料にも気を配り新鮮なものを提供し、スタッフも一緒に楽しみながら食事を楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山あいの静かな佇まいの中にある「グループホーム里心」は2ユニットの事業所で、周囲を山の緑に囲まれ、春は若葉や桜、秋は紅葉が素晴らしく、園庭や窓から見物出来る環境にある。園庭の花壇も四季の花が咲き誇り、椅子やテーブルが設置されており、焼きそばや焼き鳥等を行ったり、花見や散歩やピクニックをする事も多い。職員は家庭的な雰囲気を大切に失礼の無い様に配慮し声掛けを行っており、毎朝歌を歌ったりカラオケもしている。入居者や職員の声や表情も明るく、笑い声も多く活気があり、料理も美味しいと喜ばれている。入居者の突発的な要求で数人で買物や食事やドライブに外出する事も週1~2回はある。恵まれた環境にあるが、事業所も16年目に入ったことで、来年10月頃には町中に新築し移設予定である。今後は町中で地域との交流も今まで以上に出来ると職員の意欲も高く、これからも地域と共に益々の発展が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、理念の唱和を行い実践に心がけている。	開設当初からの理念を事業所に掲示し、毎日唱和する事で全職員へ周知を進め、入居者の方々の立場になったケアサービスを心掛けて対応している。さらに今後は、「介護で何が大切か」を、管理者や全職員と話し合うことで、新たな理念の作成を進めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、清掃活動に参加したりしている。また、9月には、里心祭を行い、黒木町全体に支援して頂きながら行っている。	自治会長の訪問や協力もあり、地域の敬老会に入居者が参加したり、毎年小学校の職場体験も受け入れている。社会福祉協議会を通して、ボランティアサークルを教えて貰い連絡し、事業所内で演芸等も行われている。	保育園との交流が前年度はあったが、今年度の交流は途切れている為、今後は事業所内での継続の交流を図る事を考えられている状況もある。今後、町中に事業所が移設する事もあり、益々保育園等と定期的な交流を深められる事が望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で伝えたり、地域の方に会話し話の中で、認知症を知っていただけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居状況、行事等を報告した後、インフルエンザ等の感染症が地域で流行っていないか等、意見交換、報告を行っている。	定期的な運営推進会議が開催されており、公民館長や総合支所、行政区長、社協、地域包括、民生員、老人クラブ会長や家族代表等の出席があり、玄関に運営会議議事録と外部評価表と一緒に設置し、公開して閲覧できるようにしている。今回初の試みで地域の祭りに事業所が参加した時にも、運営会議で車の移動や駐車場等のアドバイスを貰い、スムーズに参加出来た経緯もあり、地域交流等でのアドバイス等も貰っている。	他グループホームとの交流を進められており、今後は他グループホームの運営会議に出席したり、交流を深め情報を得る事で、事業所の運営推進会議に活かし、事業所の質の向上を図られる事が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所、地域包括支援センター、社協と連絡を取り合い、情報の共有を図っている。	総合支所や包括の職員は毎回運営推進会議にも出席しており、入居者の空き状況等も連絡している。介護申請時には直接出向き、担当課とは顔なじみになっており、何かあった時の相談などもしやすい。生活保護受給者も5名おり、市に相談することもあり、関わりは多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、毎月のミーティングでは、身体拘束の状況をスタッフ全員で把握し、外部研修にも積極的に参加し、身体拘束のないケアをできるようにスタッフ全員で取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会があり、外部研修後に内部へ伝達研修を行なっている。職員も拘束に関して理解し、日頃の言葉遣いなどにも注意することで、拘束しない取り組みにつなげている。認知症の入居者に対しても「嘘」をつかない介護を心掛けており、徘徊される方には声掛けや会話で気を紛らわせたり、どうしても駄目な時は職員と一緒に散歩を行っている。	

H28.3自己外部評価票(GH里心)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はない。と思うが、入浴時や更衣時に身体間観察をしている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に行ったものが、月1回のミーティングの際に内部研修として行っている。	入居者に成年後見人制度利用者2名と生活保護受給者が5名おり、ミーティングでホーム長から現状等の話を共有している。外部研修に参加し、内部へも伝達研修を行なうことで、制度の理解を深めており、相談があった時は主にホーム長が対応している。	成年後見人制度等の理解は深められているが、自立支援との違いが少し曖昧になっている為、今後の説明の為のパンフレットの設置や、出前講座等を利用した研修実施など、理解を深める取り組みがなされることが望まれる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	最初の入居時、また料金変更(加算等)の際は納得のいくまで説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何かあれば管理者、スタッフに伝えていただけの様、努めている。	年1回、家族会にアンケートを取り、いろいろな要望や意見を取り入れている。少し料金が安くなればとの意見が出た時は、全職員で検討し、オムツやパットの使用量を減らす等を努力して試み、要望や意見に真摯に取り組んでいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や、不定期に行う個人面談で意見を聞いている。	月1回の全職員参加のミーティングを開催し、チームワークも兼ねた、親睦を交えた話し合いになっており、職員の要望や意見も取り入れられ、掃除機等の購入もすぐ対応されている。年1回個人面談があるが、それ以外にも日頃から、話しやすく意見も挙げやすい環境があり、提案等は運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1人1人適切な評価を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の休みは希望通りになるよう心掛けています。面接希望の方がいれば、必ず話を聞いて検討している。	職員の採用にあたっては年齢や性別の制限は設けられておらず、20～70歳代の職員の就労があり、新入職員の教育には指導者が付き、周り職員の支援もある。研修委員会もあり、研修も充実しており、職員の資格取得へ向けて休みや、希望休等も取れる環境で安心して就労されている。	

H28.3自己外部評価票(GH里心)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修等に参加し、スタッフに対して周知している。	管理者が人権教員等の外部研修に行き、事業所内にポスターも掲示し、内部に伝達研修をしており、日頃から、入居者の人権を尊重した声掛けや介護等が行われている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	そのスタッフに合った研修を案内している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や地域密着型サービスの会議に参加し他事業所との交流を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の段階で利用者様本人に不安のないよう、コミュニケーションを図り、入居されても安心して暮らしていただけるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望は些細なことであっても聞くことで、信頼関係を作ることができている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	1番必要とされていること、大切なことを見極め支援している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様本人が自分でできることは、自分でして頂いている。利用者様とスタッフ。利用者様同士でゆっくり会話する時間があり、良い関係性ができている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内での状況を、些細であっても変化があればご家族に連絡している。又月に1回、手紙を出し、細かい状況を知って頂いている。		

H28.3自己外部評価票(GH里心)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで利用されていた、美容室等は、今でも使っていただけるよう心掛けている。面会等に友人や近所の方が来られた際は、気兼ねなくゆっくり話していただけるよう努めている。	家族や職員送迎で馴染みの理美容に行かれたり、以前買物に行っていた所や、自宅の方迄ドライブを希望される時には個別に職員が対応し外出している。家族と疎遠にならない様に、毎月の請求書の発送時には職員が入居者の近況報告を書いて同封している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	合う合わないが利用者様同士で見られるが、スタッフが間に入り、調和できるよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方に対しても、面会に行ったり、家族の相談を聞いたりできている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを大切に支援している。意思疎通が困難な場合はご家族の意見も聞きながら、本人の意向を考え把握している。	契約時に家族や入居者の要望等の聞き取り、初回アセスメント表を作成し、介護プランに反映させている。3カ月後に担当職員やケアマネジャーが、入居者に意向を確認し、確認の取れない入居者は様子や表情や状況等を含めて、家族に意向を確認し、アセスメント表を作成している。	フェイスシートが入居前にケアマネジャーが作成したものである為、今後は入居時にも、事業所独自のフェイスシートを作成してはどうだろうか。また、6カ月ごとのプランの見直し時に追加記入したり、介護保険の更新時には、新たな見直しやシートの作成がなされる事が望まれる。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントにて、生活歴の把握をしている。利用されていた施設等についても話を聞くことに努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態については、毎日のバイタルチェック、金曜日には訪問看護の往診で心身状況の把握をしている。本人の有する能力は会話したり個別支援で把握している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画・モニタリングは共に医師・看護師・介護スタッフの意見をもとに作成している。家族の意見は面会時や電話連絡で意見を聞くようにしている。	入居者1~2名に担当職員を決めており、3カ月に1回や更新時等に、担当職員やケアマネジャーでモニタリングを行なっている。入居者や家族や訪問看護師や主治医の意見も取り入れて担当者会議を行ない、ケアマネジャーが介護プランを作成し、職員にケア共有化を図り周知も行き、日々の実施に繋げている。	

H28.3自己外部評価票(GH里心)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌を個別で記入し問題点等あれば、スタッフで共有するようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の行きたい場所、希望は個別であっても対応するようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	協力施設等の歌謡ショーに参加したり、里心祭りを開催したり、ボランティアの協力を得たりしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療面の説明を十分納得いくまで行い、本人、ご家族の希望に沿うように努めている。	昨年迄、他科受診をされていた利用者がいたが、今は全員が提携医の往診を受けられている。希望で以前のかかりつけ医の受診は出来、事業所送迎も出来る。訪問歯科等も随時対応は可能で、受診時は介護日誌や申し送りノートに記録して、職員にも申し送りで情報を共有し、家族にも説明をしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションくろきと契約している。週1回訪問看護の往診が入っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関とはかかりつけ医と相談し、本人が不安なく生活できるよう支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームでの重度化指針・看取り指針を説明し、ご家族の希望を個別に聞き、ターミナル時には、医師・看護師・ご家族と連絡を取り、希望に沿うように努めている。	看取りに関して、職員への勉強会や、急性期の際の内部研修を実施し、直近一年でも1名の看取りを行った。入居時に看取りの要望を聞き取り、重度化した場合は再度、家族等と話し合いを行ない対応している。かかりつけ医や訪問看護も24時間対応可能で、安心して納得した最後を迎えられる様に支援し、ターミナルケアが行われている。	

H28.3自己外部評価票(GH里心)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に行ったり、ホームでの避難訓練の際、応急救護の仕方についても講義をしていただいている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。地域の避難訓練にも参加している。	年2回の訓練のうち、1回は昼夜想定して駐車場迄の自主避難訓練を行ない、もう1回は消防立会のもと、非常ボタンを押したり、入居者と一緒に放水をする防災訓練を行っている。ほか年1回は職員が地域の避難訓練にも参加しており、避難訓練後は防災管理者等の意見で、マニュアルの見直しも行い、災害対策への意識は高い。1～2日分の水や食材も確保されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その時に応じた声掛けを必要に応じて行っている。	年1回は接遇マナーの研修前に職員に○×式のアンケートを取り、結果も検討しながら内部研修会を行っている。人権を尊重し、耳元でさり気なく嫌な思いをさせない様に、敬意をはらった声掛けを職員に周知している。異性の声掛けで身構えられる入居者には同性での対応を心掛けられており、写真の同意も入居時に書面で取り交わしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様1人1人の意思を大切にするため、時間がかかっても、意思表示できる方は待ち、自己決定を大切にしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今～の時間だからと決められたことを決められた時間に行うのではなく、本人のしたいこと、したくないこと。本人のペースで行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着たい服等本人に尋ねるようにしている。お出かけの際は女性は、化粧も行うよう心掛けている。散髪も行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ物には力を入れている。おいしいものを提供するよう心掛けているが、個別にも意見を聞いたりして、本当に食事を楽しんでいただけている。	朝食は夜勤者が調理し、毎日1人の職員が調理担当者となり昼夕食のメニューを決めて、入居者に皮むきや野菜のしたごしらえを手伝って貰って調理している。週2回食材を業者に注文し、足りない物や作りたい物が出た時は随時、担当職員が買物に行き、栄養バランスの取れた、家庭的な食事の提供に心掛けられており、美味しいと喜ばれている。毎月1日は赤飯があり行事食もあり、治療食の対応も出来る。職員も一緒に同じ食事を楽しく会話しながら食べており、ピクニックに行って食べたり、外食も多い。	

H28.3自己外部評価票(GH里心)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別での対応をし、制限等ある方に関しては、スタッフ全員が把握し支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア。週1回の義歯洗浄を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別での排泄パターンを把握し、失禁のないよう支援している。	各入居者の介護日誌の中に、排泄の時間や食事摂取量、水分摂取量を記入し、職員が共有し介助している。言葉にも注意して声掛けしており、パット使用の方が、布パンツのみとなったり、パットの使用枚数を減らせたり、紙パンツ使用の方が、夜だけ布パンツとパット使用になったりと改善に繋がっている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないよう、排便状態のチェックを個別に行い、運動やマッサージを行うようにしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタルチェック後、入浴を行う。体調・希望で入浴して頂いている。入浴を拒否される方もいるが、長い間入浴してない。ということがないよう支援している。	週3～4回、10時～15時30分位迄入浴出来る。1人の入浴が終わると毎回お湯を捨てており、ひとり1人の好みの湯温の新しい湯で、気持ちよく入浴出来る。石鹸やシャンプーの持ち込みは自由で、車椅子等で介助の必要な方は職員2人介助で行っており、皮膚の管理もされている。昨年はほぼ全入居者と一緒に温泉にも出掛けて入浴を楽しまれている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に昼夜逆転のないよう支援している。が中には今までの生活歴の中に夜間の睡眠時間が短い方もいるため、個別に支援していけるよう努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容をいつでも確認できるようにしており、副作用や用法・容量についてスタッフ全員把握している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴の中での楽しみ等、本人・家族に聞くことで把握し、日々の生活で楽しんでいただけるよう支援している。		

H28.3自己外部評価票(GH里心)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別にて、行きたい場所等、家族と相談し実現できるよう支援している。	花咲き誇る園庭で、日光浴や散歩をする事も多く、近くにピクニックに行く事も多い。外出の年間予定表があり月1回はほぼ全員で花見等に外出しているが、それ以外にも、利用者の突発的な「買物・外食・ドライブに行きたい」等の声で、週1~2回は入居者数人と職員送迎で出掛けている。外出の機会は多く、入居者は楽しみにされている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の購入希望の物に関しては、本人と一緒に買いに行けるよう努めている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話したい時、手紙を書きたい時は、希望があればその都度対応している。家族以外の場合は家族と相談してから行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の生活、季節感を感じて頂けるよう、壁紙等工夫している。	事業所内は明るい木造りで、玄関内は和のタペストリーや雛飾りが飾られており、事務室よりひし形に展開した2ユニットがある。季節の掲示を心掛け、掃除や衛生面で気を付けているとの事で、ホール等の壁面には、入居者と職員と一緒に作成した、壁いっぱいの夜桜や桜の木等の大きな作品や、お雛様や切り絵や折り紙等が廊下にも飾られ、暖かな明るく清潔な空間づくりがされていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで過ごしたり、テーブルで会話したり、本人が楽しめる、又安らげる空間にしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の好きなものや、ご家族の写真等を貼ったりし、居心地の良い空間を家族と相談して、作っている。	居室のドアには、毛筆の大きな表札が掛けられており自室が判り易い。明るい室内には大きなクローゼット取付けられており、持込みは自由でダンスや机や椅子や写真等の持ち込まれ飾られていた。自前のカーテンを持ってきて、部屋の雰囲気づくりをされている方もおられ、ベットや筆筒の在庫がある時は、事業所の物を使用する事も出来る	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の場所が分かるよう、ネームプレートを付けたり、トイレやお風呂場等生活に必要な場所は名前を付け分かるようにしている。また必要な場所に手摺りを付けている。		